

SHOW HEY シネマルーム

★★★

コラテラル・ダメージ

2002 (平成14) 年4月13日鑑賞

Data

監督：アンドリュー・デイビス

出演：アーノルド・シュワルツェネ

ッガー／イライアス・コーテ

ィアス／フランチェスカ・ネ

リー

👁️👁️ みどころ

アーノルド・シュワルツェネッガー扮する消防隊員は妻と子供を愛する普通のアメリカ市民。ところが、彼の目の前で妻子はコロンビアのテロリストによりビルごと爆破されてしまう。アーノルドは国家をあてにせず、復讐のため、自分で未知の国コロンビアに向かう。あのニューヨークでの9・11同時多発テロの発生により上映が延期された話題作。

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

くともでないいプニングー9・11同時多発テロ>

この映画は、コロンビアのウルフ（クリフ・カーティス）を長とするテロリスト集団のビル爆破作戦のまきぞえになって愛する妻子を殺されたロサンゼルス消防士であるアーノルド・シュワルツェネッガー扮するゴードイー・ブルーアーが、復讐のために単身コロンビアに乗り込み、テロリスト集団と対決するという「シュワちゃん用」のアクション巨編だ。

本作品は、01年9月11日ニューヨークでおこった同時多発テロによるショックのため、01年10月5日の公開予定が延期され、やっと02年2月8日になってアメリカで初公開された。同時多発テロによるワールドトレードセンター（世界貿易センタービル）の崩壊シーンはあまりにも生々しく、全世界とりわけニューヨーク市民の目に焼きついただけに、「テロ」と聞いただけで拒絶反応をおこすことはよく理解できる。したがって9・11直後の本作品の上映が延期されたのはやむをえないが、その延期のためにかえてこの映画は注目された。

この映画ではシュワちゃん扮する主人公はFBIでもCIAでもない善良なロサンゼルス消防士であり、妻と息子の3人で幸せな家庭を営んでいるごく一般的な市民という設

定だったが、偶然にも9・11テロの直後、ブッシュ大統領が廃墟と化したニューヨーク・マンハッタンで献身的な救助活動を行い死んでいった消防士たちを讃えるため、消防士の手をとって「USA! USA!」の連呼に応えていた姿とダブることになったのは興味深い。

<「コラテラル・ダメージ」(目的のための犠牲)とは>

映画自体は、コロンビアのテロリストの爆破テロに巻きこまれ最愛の妻子を失ったにもかかわらず、本気で犯人逮捕に立ち向かおうとしないFBIやCIAに見切りをつけて、「肉体派」のスーパーマン、「シュワちゃん」が、単身、徒手徒拳でコロンビアの地の奥深くへ入りこみ、数々の危険をはねのけてテロリストの本拠地に到達する、そして火薬を扱うことに馴れている消防士としての特性を活かして、テロリスト「ウルフ」の本拠地を爆破させ壊滅させるという大活劇でそれなりに面白い。ちなみに「コラテラル・ダメージ」とは「目的のための犠牲」という意味。つまり、ゴードリーの最愛の妻子の死は国家にとっては「目的のための犠牲」にすぎないのではないかと疑い、ゴードリーは自力でのテロリスト退治という目的に向かっていくわけだ。

紅一点の女性セリーナ(フランチェスカ・ネリー)が魅力的だ。彼女はウルフの妻だが、シュワちゃんがコロンビアに潜入するについて、持ちつ持たれつの大きな役割を果たし、ウルフに拘束されたシュワちゃんとの間に人間的な交流も生まれてくる。そして最後には彼女が大きなドンデン返しの主人公になろうとするが・・・。

<あいかわらず、お元気ネ・・・>

とにかくシュワちゃん映画として観ればそれなりに面白いことはまちがいない。またテロリスト・ウルフの目を通じてだが、私たちが知らないコロンビアという国や土地の特性そしてコロンビアとアメリカとの(対立)関係もそれなりに理解できて興味深い。

夫婦ゲンカした時や仕事があまく進まずイライラしている時など、あまり深く考えずに気分をスカッとしたい時にはおすすめのスワちゃん映画だ。

しかしそれにしてもシュワちゃんは今何歳?いつまでもよくやるね・・・。

2002(平成14)年6月10日記